

在京石鳥谷 町人会だより

<連絡所>在京花巻ふるさと会事務所
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル 603 号室
TEL 03-6256-8082
FAX 03-6526-8083
<事務局> 〒270-0127 千葉県流山市
富士見台 1-10-40 高橋弘美
TEL 0471-54-8597

(題字 旧石鳥谷町長 高橋公男 氏)

—在京石鳥谷町人会創立30周年記念特集号—



八幡地区の皆さんによる春日流鹿踊

御挨拶

在京石鳥谷町人会会長
高橋 弘美



会員の皆さま、こんにちは。高橋弘美でございます。皆さまにおかれましては、お健やかに過ごしていることとお慶び申し上げます。

「町人会だより」平成 31 年春号をお届けするにあたり、まずは昨年中に皆さまから寄せられたご支援、ご協力に対しまして心より御礼を申し上げます。

特に昨年は我が在京石鳥谷町人会が創立 30 周年を迎えての記念行事を実施することに当ってご寄付や記念誌へのご寄稿などのご協力を頂いたことにつきま

して心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

既にお配りしています創立 30 周年記念誌には前回の総会・親睦交流会の直前までのことを収録してありますが、今回の「町人会だより」はその総会・親睦交流会の準備状況から当日の様を中心に編集しました。

30 周年記念総会・親睦交流会はこのように開催されたんだね、と改めて思い出されることと思います。是非一読下さいませ。よう又、引き続き当会の活動にご協力下さいますようお願い申し上げます。



石鳥谷総合支所から送られてきた 30 周年記念樹の枝垂れ梅です (3/27 撮影)。まだ蕾で開花は 4 月になるそうです。

達増拓也岩手県知事からのメッセージ

在京石鳥谷町人会の開催に際しメッセージをお送りします。

皆様には、ふるさと岩手の発展のため、日ごろから多大なる御支援を賜り、また、東日本大震災津波及び台風第 10 号の被害からの復旧・復興に対して、多くのお力添えをいただいております。改めて心から御礼申し上げます。

さて、東日本大震災津波の発生から 7 年 7 カ月が経過しました。県では、暮らしの再建やなりわいの再生とともに、台風第 10 号により甚大な被害を受けた地域の住環境の整備など、復旧・復興事業を着実に進めているところです。

本年度も、被災者のこころのケアや新たな居住環境におけるコミュニティの形成など、被災者一人ひとりに寄り添いながら、一日も早い復興を目指し全力で取り組んで参ります。さらに、2019 年は、ラグビーワールドカップ 2019TM 日本大会が、被災地では唯一、釜石市で開催されるとともに、三陸鉄道の一貫運営の開始など、三陸地域が国内外から大きな注目を集める好機です。

県におきましても、復興に向かい歩みを進める地域の姿や東日本大震災津波への支援に対する感謝の気持ちを伝え、多様な交流の活発化により、新しい三陸地域の創造につなげていくことを目的とし「三陸防災復興プロジェクト 2019」の開催を計画しており、地元の底力と様々なつながりの力を合わせて、復興のさらなる発展につなげていきます。

東日本大震災津波及び台風第 10 号からの復興と、本県の減少に歯止めをかけ、岩手への新しい人の流れを生み出すふるさと振興を力強く推進して参る所存であります。皆様におかれましては、ぜひ故郷との交流を一層深めていただき、ふるさと岩手の復興のため、更なるお力添えをいただきますようお願い致します。

結びに、皆様のますますの御活躍と御発展をお祈りし、お祝いの言葉といたします。

平成 30 年 11 月 4 日

達増拓也

在京石鳥谷町人会創立 30 周年記念 総会・親睦交流会に 176 名出席、盛大に開催さる



「在京石鳥谷町人会創立 30 周年記念総会・親睦交流会」は、上田東一花巻市長、小原雅道花巻市議会議長のご臨席を賜り、昨年 11 月 4 日（日）盛大に開催されました。

当日会場となった精養軒「桜の間」は、不忍の池等上野公園の見事な景色を望め、この日の会合に最もふさわしいお部屋でした。当日ご出席のご来賓、一般の会員を含め 176 名の皆さんには、ゆったりとご歓談いただき、大いに満足いただけたのではないかと思っております。関係者の皆さんには改めて心よりお礼申し上げます。

本号では、今回の総会が 10 年に一度の大きなイベントでもありましたので今後の参考の為に記録に留めておく必要ありと考え、裏方業務を含め時系列にドキュメントタッチにまとめました。若干微に入り細を穿ちすぎた感がありますが、何卒ご容赦ねがいます。

ドキュメント1 前日の夕方

町人会役員は、総会・親睦交流会を成功裏におさめるべく、前日午後 3 時 30 分に上野精養軒一階のロビーに集合し、それぞれの担当に依り諸準備を始めた。通常このような裏方の業務についてまで会報で紹介することは無いが、この日お手伝いいただいた町人会役員等は、貴重な時間を割いてボランティアとして作業していることを考え、労をねぎらう意味も込め、あえて公開した。

① 石鳥谷総合支所が取りまとめて送付した協賛品などの荷物を開封し、中身を確認。

② 出席者に配付する各種印刷資料を会員、各ふるさと会、石鳥谷関係の出席者ごとに大型封筒に必要部数準備。

③ テーブルに置く酒類の確認。

④ 抽選会用景品等の確認。

⑤ もち米を藤原富蔵幹事に渡し、餅づくりの下ごしらえをお願いする。残りは、抽選会景品用として 1kg ずつ 10 袋作る。

⑥ 当日販売する地元特産品の確認・選別を石鳥谷総合支所職員にお願い。

⑦ 名札が 2 種類（ID 用と抽選用）同数あることを確認、ID 用名札は受付確認用名簿と照合チェックした上でケースに入れ、受付の地域ごとにまとめる。

⑧ 座席札をテーブル番号と座席番号の印字を確認し、席次表と照合したうえでテーブルごとにまとめる。

⑨ ストラップは来賓、コミュニティ、近隣ふるさと会、会員、町人会役員、と色分けしまとめておく。

⑩ 来場者用の席次表と会場入口に貼り出す大型席次表の確認。

⑪ 受付確認用名簿（来賓、東京、埼玉、神奈川、千葉、その他に区分）を受付責任者が受取り保管。

⑫ 在京石鳥谷町人会旗、同旗旗竿の確認。

⑬ 在京石鳥谷町人会歌 CD の所在確認。

⑭ リボン（来賓用・招待者用）の所在確認。

⑮ 表彰式で贈呈する感謝状が嚴重に保管されているかの確認。

この日の作業に参加した役員等は以下の通り。高橋弘美（会長）、大竹雅夫（副会長）、飯塚悦子（同）、山口建（同）、吉田久美子（同）、佐藤忠男（同）、川村三郎（同）、佐々木ミツ子（幹事）、大原公司（同）、山口郁子（同）、佐藤修（同）、川村政義（同）、菊池善男（監事）、柳原政義（同）、河嶋稔（参与）、石鳥谷総合支所関係者 2 名、藤原富蔵氏の妹ご夫妻、高橋会長の御親戚 1 名。以上 20 名。

ドキュメント2 当日の朝

昨日に引き続き、役員等は、午前 9 時に集合し、会長の挨拶の後、早速、以下の作業にとりかかった。

① 出席者へのお土産のセット

来賓及び石鳥谷コミュニティ用東京限定お土産を佐藤副会長が 66 個準備、会員向けお土産 120 個準備、内容はリンゴ 1 個、ラ・フランス 1 個、お酒（1 合）1 本、お米（1 合）1 袋、30 周年記念つるし雛ストラップ（石鳥谷コミュニティ合同提供 200 個）。

② 懇親会場テーブルに席札をセット

精養軒のテーブルセット終了を確認後前日纏めておいた席札を、テーブル番号を確認しながらセット。

担当は、高橋弘美、大竹雅夫、川村三郎、菊池正弘、河嶋稔、菊池善男、柳原政義。

③ テーブルに指定のお土産を置く



① 受付1 (町人会会員)
ドキュメント3 受付(会計)

⑤ 広報
会終了まで、スポットごとの写真、テーブルごとの写真を撮る
担当は、大竹雅夫、川村政義。

④ 餅つき
前日より下ごしらえした餅米9kg によりつくり始める
担当は、藤原富藏、佐藤修、下川友子、下川一子、島節子。

③ 餅つき
前日より下ごしらえした餅米9kg によりつくり始める
担当は、藤原富藏、佐藤修、下川友子、下川一子、島節子。

② 餅つき
前日より下ごしらえした餅米9kg によりつくり始める
担当は、藤原富藏、佐藤修、下川友子、下川一子、島節子。

各地域別受付用名簿(東京・神奈川・埼玉・千葉・その他)を備付、受付後次のものを手渡す。①ケース入りの名札、②領収証、③会議資料(「総会・交流会資料、30周年記念誌朋友、花日和、ポスター、その他石鳥谷からの配布物)、④席次表。

② 受付2 (御来賓・石鳥谷コミュニティ会議、各ふるさと会)
名簿を備付、受付後次のものを手渡す。①ケース入りの名札、②領収証、③会議資料(「総会・交流会資料、30周年記念誌朋友、④席次表)

③ 留意事項
① 御来賓及び石鳥谷コミュニティ会議関係者の受付は人物確認の為に総合支所職員の協力により滞ることのないように配慮。
② 御来賓については、会場までアテンドする(御来賓受付ウエルカムドリンク係りに状況を見ながら案内をする)接待は高橋会長が担当。
③ 会場へ入場の際、ドリンクサービスを行う(水差しを用意する)。
④ 無地の名札、抽選札、席札のSPAーを用意する。
⑤ 「いしどりやチャンネル」の動画をスクリーンで紹介。
担当は、飯塚悦子、伊藤精司、佐々木ミツ子、草間マサ子、大原公司、山口郁子、板垣幸雄、川村政義。

④ 会計
会費用領収証、会費収納箱を地域別に受付にセット
担当は、山口建、山口郁子。



ドキュメント4 総会
司会は菊池正弘、菊地勝江両幹事が担当、自身の自己紹介に引き続き総会開会5分前なので、所定の席にお着きになるようアナウンス。

参加者	
来賓・他	34名
コミュニティ	37名(含む八幡まちづくり協議会会長)
会員・他	92名
お手伝い	3名
鹿踊	10名
計	176名(昨年164名)、当日欠席・参加者各3名
収入	
参加費 来賓	508,000円(昨年 460,000円)
会員・他	701,500円(昨年 677,000円)
計	1,209,500円(昨年 1,137,000円)
当日年会費	88,000円(昨年 84,000円)
上野精養軒支払	1,046,956円(昨年 932,418円)

総会は、次の進行次第で進められた。
① 開会挨拶 司会者
② 物故会員に黙祷、この間、窓際のカーテンは閉め、室内照明を落とす。



③ 「在京石鳥谷町人会歌」(CD)をバックに流しての斉唱)。司会者からは、会歌の作曲者である故細川久美子氏について紹介。
④ 会長挨拶 高橋会長



⑤ 総会の議案審議
① 議長選出(会則第9条により会長が務める)
② 第一号議案の審議。会長より、平成29年度事業報告及び同年度収支決算について説明。
③ 柳原監事による監査報告のあと承認。
④ 第二号議案の審議。会長より平成30年度事業計画案及び同年度収支予算案について説明があり、承認。
第三号議案の審議
⑤ 役員改選(大竹雅夫氏の副会長退任及び参与就任、川村政義幹事の広報担当副会長就任)について説明があり承認。
⑥ 表彰式

全ての案件が承認された後、在京石鳥谷町人会創立以来30年にわたり

役員として多大な貢献のあった大竹雅夫氏に感謝状等を贈るセレモニーを行う。

⑦上田東一花巻市長、小原雅道花巻市議会議長のご祝辞



花巻市議会議長のご祝辞

花巻市長のご祝辞

花巻市長からは、地元花巻の近況報告とともに「在京石鳥谷町人会」のふるさとにおけるイベント等に対する支援活動への感謝の言葉、そして、小原雅道花巻市議会議長からは、花巻市発展のために多大なる貢献をしていることに感謝している旨のご祝辞あり。

⑧お祝いのメッセージ

司会者から、達増拓也岩手県知事からお祝いのメッセージが届いている旨紹介があり、その場で読み上げられる（全文は2ページに掲載）。最後に、御来賓、在京ふるさと会、石鳥谷各地域のコミュニティ協議会の皆さんをグループごとに全員のお名前を読み上げ、最後に代表者を紹介するかたちで順次紹介（本号

の6頁以降に全員の集合写真とご芳名を掲載）。

ドキュメント5 親睦交流会

①鏡開き

今年度は創立30周年ということもあり、まずオープニング・セレモニーとして来賓による「鏡開き」が行われ、司会者の「セーノ」の掛け声により、檀上の6名と会場の皆さんと一緒に「ヨイシヨ」と応じ、「南部関」の孤樽の鏡は見事に開かれた。

左の写真は、半纏を着用し、木槌をもって鏡開きをする右から小原雅道花巻市議会議長、上田東一花巻



市長、高橋弘美在京石鳥谷町人会会長、菅原善幸石鳥谷総合支所長、中村弘樹花巻商工会議所石鳥谷支部会長、瀬川紘一花巻ふるさと会会長。

②乾杯

鏡開きの後、御来賓はそのまま壇上に残り、孤樽から6個の榊にお酒を注ぎ、中村弘樹様ご発声による乾杯。各テーブルの上には、「南部関」と「七福神」、「エーテルワイン」の一瓶瓶が並び、さすが「南部杜氏の里」の「在京ふるさと会」だなど実感。

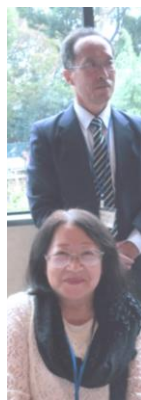
毎年このことではあるが、それぞれのテーブルは、共通の話題で場が持てるように配慮し、石鳥谷町内の同一地域出身者が同席となるようにセッティング。今年度は、30周年と



いうこともあり、テーブル数は昨年度より多く16とし何時にも増して故郷の話題等で盛り上がった。毎年、好評を博しているお餅は、新堀の高橋淑郎様の御好意でいただいたもち米で料理されており、今年も、あずき餅、くるみ餅、ズンダ餅が振舞われたが、例年のごとくあつという間になくなる。

③アトラクション

親睦交流会の司会は、菊池正弘幹事と荒瀬富姫子幹事のコンビ（左の写真）にバトンタッチされ、新堀出身の津田富美子さんによる歌謡シヨウ、在京石鳥谷町人会女子会員によるフラダンス、八幡地区の春日流鹿踊の披露といった「アトラクション」により大いに盛り上がる



④歌謡（津田登美子、瑛章）三曲

津田さんは、現在埼玉県川越市に在住し、第一興商音楽出版社と契約し、「こころ妃富美」という芸名で、



歌手活動をしながら、ご自分のカラオケ店で近隣の方々に歌のレッスン指導をされているとのこと。この日の披露曲は「願いを込めた虹の橋」「こころの故郷」「歌仲間愛して・・・歌を愛して」の3曲。

◎フラダンスの演舞

30周年記念の演舞は「エ・ホイ・イカ・ピリ」「ケイ・アロハ」「花は咲く」の3曲、この日踊ったのは、吉田久美子、草間マサ子、佐々木ミツ子、荒金良子、有田睦子、斎藤美智、飯塚悦子の7名の町人会女子会員、櫻井サト会員は都合により休み。フラダンスチーム発足の経緯を簡単に紹介しておく。平成18年に1市3町の合併で花巻市になった際、それまで石鳥谷町が郷土芸能の企画も含めて運営していたが、合併後自主運営となりアトラクションをどうするかという問題に直面し、その年は「ロスプレーチョス」(上川信行幹事を代表とする数名)による南米音楽の演奏と女子会員によるフラダンスを行うことになり、それ以来フラダンスチームは12年間継続して活動している。練習は、「日暮里ひろば館」で、フラダンス教室に通っているメンバーを指導者と仰いで行っており、概ね、毎年4月から10月まで月に2回(金)を原則としているが、本番直前の9月と10月は毎週になってしまうようである。会員の居住地は、遠くは草加、調布、八王子の方もおりメンバー全員ボランティア精神で頑張っている。

30周年 在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会



◎郷土芸能「八幡春日流鹿踊」(表紙参照)

今回、八幡まちづくり協議会様、春日流鹿踊り保存会様他、関係各位のご尽力とご好意で実現した。演舞終了後、一人ずつ紹介あり。



ドキュメント6 集合写真撮影

集合写真には、必ずしも当日の出席者全員が写っているわけではない。また、掲載の名前は順不同・敬称略となっている。

御来賓(順不同)

上田東一(花巻市長)、小原雅道(花巻市議会議長)、鎌田幸也(花巻市議会議員)、瀨川義光(同上)、佐藤現(同上)、横田忍(同上)、高橋靖(花巻市議会議務局局長)、菅原善幸(花巻市石鳥谷総合支所支所長)、藤原良浩(同支所地域振興課長)、中村弘樹(花巻商工会議所石鳥谷支部会長)、一般社団法人花巻観光協会副会長、有限会社(社匠丸文代表取締役)、関英雄、同伴関千代子(関庄糧穀株式会社代表取締役社長)、同夫人、川村祐基(合資会社川村酒造店取締役社長)、箱崎晴己(菊の司酒造株式会社元副社長)、藤館昌弘(株式会社エーテルワイン代表取締役社長)、熊谷真也(岩手日報社東京支社編集部長)、瀨川紘一(在京花巻ふるさと会会長・在京花巻人会会長)、高橋良光(同上副会長)、板垣雅子(同上理事、菊池美津子(同上理事、内村正明(在京大迫人会会長)、伊藤秋英(同上副会長)、武井美砂(同上副会長)、蟹澤政志(在京東和町友会会長、佐々木幸三(同上名誉会長)、千葉政光(同上副会長)、鎌田節郎(同上副会長)、佐々木茂良(同上幹事)、斎藤美智(同上幹事)、佐々木幸吉(紫波町ふるさと会会長)、弥勒地功(同上幹事)、阿部敬(在京金ヶ崎町人会幹事長)、金澤



志年(同上事務局長)、板垣寛(石鳥谷町議会議員 OB 会長)、高橋淑郎(同上 OB 会員)

八幡地区出席者

◎八幡まちづくり協議会関係者

藤澤信悦(八幡まちづくり協議会会長)、玉山領一(同上顧問)、伊藤賢治(同上産業部会長)、永井紳逸(同上教育文化部会長)、高橋元一(同上保健体育部会長)、菅原松夫(同上総務広報部副部

長)、玉山昌可(八幡まちづくり協議会)、玉山忠孝(同上)、大原晋(同上)、高橋玲子(同上)、葛岡真由美(同上事務局長)

○春日流八幡鹿踊保存会関係者
 玉山克巳(春日流八幡鹿踊保存会会長)、藤原敏也(同上師匠)、藤原理(同上演者)、平澤正成(同上演者)、似内翔太(同上演者)、平賀智希(同上演者)、柳原昌太郎(同上演者)、中野梨菜(同上演者)、小野七海(同上演者)、安部薫(同上演者)



○八幡地区出身在京町人会員等
 飯塚悦子、大原公明、小野寺靖子、河嶋稔、後藤勝夫、佐々木ミツ子、菅原好弘、鷹蒼善司、滝田大、晴山祐吉、藤井洋、八重樫克彦、柳原政義

新堀・八重畑地区出席者

○新堀地区コミュニティ会議関係者
 高橋公男(新堀地区コミュニティ会議会長)、佐藤正志(同上副会長)、高橋護(同上副会長)、鈴木俊一(同上文教部会長)、伊藤浩司(同上福祉部会長)、似内進(同上生活産業副部会長)、佐々木久雄(同上事務局長)、藤原久美子(同上事務局長)

○新堀地区出身在京町人会員等
 伊藤精司、鎌田順子、川村政義、後藤榮、佐々木敬也、澤泉美智子、高橋友二、高橋政男、高橋幸也、津田富美子、津田瑛章、似内常夫、畑中昭子、藤原節子、山口郁子、吉田久美子

○八重畑コミュニティ協議会関係者
 佐藤芳彰(八重畑コミュニティ協議会会長)、南部富久(同上副会長)、淵澤吉和(同上事務局長)、晴山都紀子(同上事務局長)、菊池清子(同上事務局長)

○八重畑地区出身在京町人会員等
 荒金良子、飯島八重子、石原功子、井上俊久、井上すみ子、大竹藍子、大竹謙吉、大竹キヌ、大竹伍朗、大竹雅夫、草間マサ子、坂口行子、佐藤修、島節子、下川一子、下川友子、高橋良子、富田志津子、畠山八重子、



菊池澄子(同上副会長)、藤館茂(同上総務企画部副会長)、菊池尚範(同上事務局長)

○好地地区出身在京町人会員等
 小田島暎子、鎌田隆、河村勝也、川村三郎、菊地勝江、菊池順司、菊

晴山叔郎、福山満子、堀田恵美、堀田欣男、山下ミツ子

好地・大瀬川・八日市地区出席者

○好地地区まちづくり委員会関係者
 岩館仁(好地地区まちづくり委員会会長)、立花英一(同上副会長)、



池正弘、君田敏、小森林洋介、佐藤忠男、茂木充子、門間貴美子、八重樫正見、山口建

○大瀬川活性化会議

熊谷秀夫（大瀬川活性化会議会長）、菅原教雄（同上副会長）、藤原美宏（同上副会長）、熊谷敏江（同上事務局員）

○大瀬川地区出身在京町人会員等

板垣幸雄

○八日市地区コミュニティ会議

八重樫康治（八日市地区コミュニティ会議会長）、高橋俊尚（同上副会長）、熊谷幸雄（同上幹事）、佐々木和則（同上事務局員）

○八日市地区出身在京町人会員等

荒瀬富姫子、菊池亜矢子、菊池栄子、菊池廣、桐田嘉朗、櫻井サト、佐藤蓉子、藤原圭祐、藤原富藏、藤原文雄、藤原寛志

その他出席者

○花巻市関係者

高橋靖（花巻市議会事務局局長）、晴山剛（石鳥谷総合支所地域振興課課長代理）、佐藤敦（石鳥谷総合支所地域おこし協力隊）

○その他関係者

有田睦子、小沢邦子、斎藤美智、佐々木新幸、菅原唯男、土屋恭子、細川フランク、

ドキュメント7 ふるさと特産品抽選会

毎年、会員である出席者全員にふるさとの協賛企業様（左に一覧掲載）からご提供の商品をお土産としてお持ち帰りいただいている。手提げ袋には「合資会社川村酒造店」様、「菊の司酒造株式会社」様からのお酒、「JAいわて花巻」様からのお米、「伊藤果樹園」様からのリンゴとラ・フランスが詰めあわされている。

これとは別に「特産品抽選会」の景品としてもご提供いただいております。この日も思い通りの商品にあたりつつたのか、景品を手に喜色満面の笑顔でガッツポーズをとる人もいた。

花巻商工会議所
JAいわて花巻
(有)アグリスト
岩手阿部製粉(株)芽吹き屋
伊藤果樹園
エーテルワイン(株)
長田屋
(株)亀屋
(資)川村酒造店 南部開
菊の司酒造(株)七福神
喜平堂
協同農産(株)
砂田屋(株)
関庄糧穀(株)
(有)染屋たきくら
丸大食品(株)
(有)菓匠丸文
道の駅「石鳥谷」南部社氏の里

この抽選会は、会員には必ずあたるようになつており佐藤忠男副会長の進行によりすすめられた。これをアシストしたのは、吉田久美子、佐々木ミツ子、草間マサ子、櫻井サト、君田敏の役員。

抽選カードにはテーブル記号を印刷し、名前と一緒に読み上げ、景品には、抽選されたカードを次々と貼っていく作業を速やかに行っていた。壇上には景品の陳列机と当選した方用の机一脚を事前に準備。当った方には商品と引き換えに名札を回収し所定の箱にいれることにした。ロスタイムが生じないように、各テーブルにいる幹事は景品の受領忘れのないように常にフォロ体制をとった。プレゼンターとしては高橋会長自らが行った。以上の体制をとったことで、スムーズな進行となった。

ドキュメント8 閉会の挨拶

(大竹雅夫副会長)



会の最後は、永年にわたり会の為に多大の貢献のあった大竹副会長の閉会の挨拶で閉めた。

今年度も特に問題なく、終えることができた。これも、会員の皆様のご協力があったればこそ、と言える。

ドキュメント9 司会者による閉会宣言

司会者から、来年の総会・親睦交流会は、11月4日(祝日)・月開催の予定である旨アナウンスがあり、来年の再会を約してお開きとなる。在京町人会の会長、副会長、幹事は全員で出席者を見送った。

このあと、後片付けは役員全員で行い、最後に精養軒への支払いも終え、本年度も滞りなく終えることができた。全ての作業終了のうえ撤収。

二次会(会費制)

恒例の二次会は上野駅隣接の「文化亭」でおこなわれた。毎年のものであるが、予定の人数を超える出席者で大いににぎわった。二次会の参加者については、各テーブルの幹事が参加者を募集し、川村三郎副会長に連絡することで人数調整をしている。会長は、一足先に出向き来賓、会員の二次会参加者の案内役をつとめた。



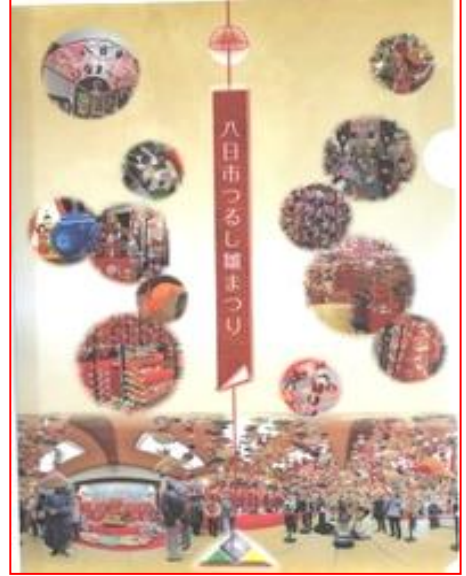
感謝

「つるし雛ストラップ」と「クリアファイル」の寄贈について

在京石鳥谷町人会創立30周年を祝し、石鳥谷地域コミュニティ会議様から「つるし雛ストラップ」200個と八日市つるし雛まつりの写真をデザイン化したクリアファイル200枚のご寄贈をうけました。

ストラップは、ひと針、ひと針丁寧な手作業によるもので、とても気持ちの伝わるプレゼントとして皆さん大喜びでした。あらためて御礼申し上げます。

「石鳥谷地域コミュニティ会議」は、好地地区まちづくり委員会、大瀬川活性化会議、八日市地区コミュニティ会議、八幡まちづくり協議会、八重畑コミュニティ協議会、新堀地区コミュニティ会議の6団体によって構成されており、今回つるし雛ストラップの作成にあたっては「八日市つるし雛同好会」のみなさんの協力があつたということです。



会員からの寄稿

創立三十周年記念総会を振り返って

菊池 正弘
(幹事・好地出身)

昨年11月4日に開催された30周年総会・親睦会は、鏡開きや貢献者表彰など特別なアトラクションが催され、節目の総会にふさわしい記憶に残る会であったと思います。初めて上田市長のご出席をいただき、盛り上がりが更にヒートアップしたと感じます。また、翌日の岩手日報新聞には、「写真入りで総会開催記事が出ている」との連絡が友人からありました。報道陣として岩手日報の記者が来ていたようですね。

「スゴイぞ、石鳥谷町人会(笑)」。「アトラクションでは、「春日流鹿踊り」の太鼓の勇ましい響きが花を添え、その舞には上野精養軒のスタンプ一同が度肝を抜かれて見・聞き入っていたのが印象に残っています。

また、恒例のフラダンスも年々レベルアップし華やかになっていると感じるのは私だけでしょうか。

更に特筆すべきは、皆さん待望のお餅の提供です。上野精養軒の通常

の営業ではありえない「もち米、餅つき機、作業員」すべて持ち込みで作業させていただいており、その厚意には、感謝の限りです。今後も引き続きお世話になりたいですし、そのためにも衛生管理をしっかりすることが肝要です。

総会には、毎年全地区のコミュニティ会様からのご出席をいただいております、会員が一同に会して相互にコミュニケーションがとれる機会は本総会を除いてあまりなくて、その点でも地域の活性化に一役かっていると思います。

今後とも会員及び関係者の皆様にご協力をいただき「参加して楽しい石鳥谷町人会」にしていきたいでしょう。

創立三十周年記念総会を振り返って

後藤 勝夫
(幹事・八幡出身)

昨年11月4日(日)在京石鳥谷町人会総会、親睦交流会に参加し多くの方と交流できました事を心から御礼申し上げます。当日は、JR上野駅を降りて上野精養軒へ向かいながら今日はどんな方々とお話しが出来るか心ウキウキし会場に着きました。会場に入り資料をいただき指定された席に座ると、さっそく隣の席の人から「何處からきました

岩手日報 平成 30 年 11 月 5 日



か、出身はどちらですか」と声をかけられ、話が弾みました。やはりこれが町人会親睦交流会だなあとつくづく感じました。

間もなく総会が始まり高橋弘美会長の挨拶、その後議事も滞りなく終了。続いて大竹雅夫副会長へ永年の特別功労への表彰がありました。

引き続き、花巻市長上田東一様始め多数の御来賓より創立30周年に対してのご祝辞を頂戴し、最後に御来賓の紹介をもって総会を閉会。これから第2部の親睦交流会の始まりです。テーブルに並び料理、毎年人気の餅（ゴマ餅、アノコ餅等）をいただきながら酒を酌み交わし、周

りに準備された唄、フラダンス、故郷の民俗芸能である「春日流八幡獅子踊り」などのアトラクションを拝見しながら楽しく過ごすごうができました。地域別の集合写真の撮影のあと、ふるさと特産品抽選会があり、商品が当たることに拍手喝采を浴び大喜びでした。

本当に楽しい一日を過ごさせていただき思い出になり、また来年会いましょうと別れを告げました。最後に在京石鳥谷町人会第31回目は新しい元号のなか40周年に向けたスタートです。町人会の益々の発展と会員皆さま方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

在京石鳥谷町人会平成30年度総会親睦交流会を終えて

櫻井 サト
(幹事・八日市出身)

平成30年度の在京石鳥谷町人会は、創立30周年記念の年を迎え、11月4日、上野精養軒にて行われ役員一同を引き締めて取り組みました。記念の年の開催でもあり、花巻市長上田東一様、花巻市議会議長小原雅道様をはじめ他の花巻市議会議員の皆様方、他のふるさと会の方々、花巻市石鳥谷総合支所の関係者、春日流鹿踊の郷土芸能関係者等大勢お越しいただき、お蔭さまで総勢176名もの参加者とともに盛大にそして滞りなく行うことができました。

総会は定刻通り11時30分に開始、冒頭、町人会歌「朋友」を斉唱しました。今回は、作曲者の細川久美子さんが5月に亡くなられ、歌唱指導もされていたところが思いだされ、寂しく思ったのは私だけではないと思います。親睦交流会では鏡割りが行われ、引き続き乾杯と進み、皆さんお楽しみのアトラクションでは、新堀出身の津田富美子さんによる歌謡ショー、八幡の皆さんによる春日流鹿踊、町人会女子会員によるドレスアップした華やかな衣裳での

フラダンスの演舞で会は盛り上がりしました。

会食は上野精養軒の洋食のほか、田舎を思い出し喜んでいただけようように特別にお願いした「芋の子汁」を提供していただき評判は上々でした。また、お餅は、町人会幹事とその家族が総出で前日のお米研ぎから準備を始め、当日なるべく搗きたての柔らかい餅をご提供するために餅つき機を持参しており、頭がさがります。参加者に振る舞われる餅の種類は「ずんだ餅」「くるみ餅」「こま餅」「あんこ餅」等であり、毎年一番の人気で行列ができるほどです。この日やはりご提供のあった田舎の懐かしい味の漬物と一緒に食する味わいは格別でした。

お腹いっぱいではほろ酔い気分になった頃、恒例の福引抽選会、これは石鳥谷の協賛企業様から毎年ご提供いただいている物産等の品々が会員参加者全員に当たるというもので、毎年これを楽しみにおられる方も多いです。お米5kg当たった人は嬉しそうに宅配便に頼む姿が印象的でした。協賛企業等関係者の皆様にはあらためて感謝申し上げます。

大いに盛り上がった親睦交流会も午後2時50分に閉会となりました。お帰りの際は、石鳥谷のお酒、りんご、ラ・フランス、つるし雛デザインのおストラップとクリアファイル、等のお土産と、抽選会で当たった商

品等を大・小の手荷物として抱え家路に急ぐのでした。

最後に一言、創立以来30年間、この会を支えてこられた大竹雅夫副会長は、功績を讃えられ表彰されました。本当にありがとうございませした。また、創立30周年記念誌『朋友』は、川村政義副会長が編集委員長として30年分の資料をもとに編集され、すばらしい記念誌となったことは喜ばしい限りです。



飯塚悦子副会長手作りの一品(小物入れ)

岩手県人連合会新春懇親会に参加して

川村 政義
(副会長・新堀出身)

平成31年岩手県人連合会新春懇親会は、2月3日(日)ホテルラングウッド2階「飛翔の間」(於山手線・日暮里駅南口徒歩1分)において205名の参加者があり盛大に開催されました。「在京花巻ふるさと会」からは、瀬川会長をはじめ15名が参加しました。

会は定刻の12時45分に開会され、開会のあいさつに続き「菊詩会」6

名の皆さんによる岩手県民謡を中心にした唄と踊りでにぎやかに幕が開かれました。この日の演目は「南部よしゃれ節」「南部儀積唄」「外山節」「南部もちつき唄」「南部牛追い唄」、最後に岩手が生んだ人気歌手「福田こうへい」の「南部蝉しぐれ」で閉められ、冒頭から岩手県民謡のオンパレードで会場のボルテージはいやがうえにも上がりました。この時ばかりは「民謡の宝庫・岩手県」を改めて認識させられました。

鈴木文彦連合会会長からは、スキージャンプ男子のワールドカップで個人総合ランキングのトップに立つ小林陵侑選手や大相撲の郷土力士「錦木」など岩手県出身のスポーツ選手の活躍について触れられ、とりわけ「錦木」が殊勲の星を上げインタビューをうけた際の笑顔テレビ機軸でみて、改めて「笑顔・笑い」の効用を認識したようであり、それを引き合いに「・・・本日ご出席の皆さんにおかれまして、この一年間笑顔で健康に過ごせるように、そして笑いの初日が本日の懇親会であってほしい・・・」との挨拶がありました。確かに真偽のほどはわかりませんが「笑い」がストレスを解消し、病気を遠ざけ生活習慣病の予防にも役立つという話を聞きます。相撲に関連して一言、伊勢ノ海部屋の由緒ある「錦木」という四股名は、過去の岩手県出身力士が名乗っていたことを存じてしよ

うか、江戸時代に活躍した「錦木塚五郎」は花巻市大迫、「錦木塚工門」は北上市の出身のようです。

引き続き、連合会の参与でもある平野直岩手県東京事務所長からは、新年の挨拶とともに、以下の三つの事業について紹介がありました。①震災復興事業「大震災津波から丸8年経過しようとしているが、復興はまだ全体の7、8割であり、途上段階である。三陸地域の本年度の明るい話題として、三陸鉄道の宮古駅と釜石駅間の復旧に伴う全線開通、「ラグビーワールドカップ2019」の2試合が釜石で開催、陸前高田市・高田松原津波復興祈念公園」内に「東日本大震災津波伝承館」を設置、等が予定されているので是非現地に足を運んでいただき、みなさんの力で盛り上げていただきたい。②「Uターン事業」北上市、奥州市、金ヶ崎町を中心に進められているUターン事業が整備された暁には、5千人規模の雇用が見込まれており、このようなことは近県ではみられない



い誇るべきことである。③「IC」の誘致「北上山地が建設候補地であった「国際リニア」ライナー」(IC)構想は、先般学術会議から文部省に答申があり、誘致はきわめて厳しい状況にあるが、新聞等で話題に上がると思うのでよく見守っていただきたい。

懇親会は鈴木淳若手日報東京支社長の乾杯の発声により開宴しました。会員同士の新年の挨拶・懇談で会はさらに盛り上がり、最後は「菊詩会」の三味線奏者の演奏をバックに「ふるさと」と「北国の春」を合唱し、来年またお会いすることを楽しみに15時ちょうどに閉宴となりました。

「第39回全日本綱引選手権大会」観戦記

上川 信行
(幹事・八幡出身)

2019年3月3日第39回全日本綱引選手権大会に女子チーム「いしどりや」の連続出場が決まり、在京石鳥谷町人会として本年度も応援することにになり、久々の雨模様の中有志7人が応援にかけつけた。

会場は、駒沢オリンピック公園体育館であった。到着するとちょうど開会式が始まったばかりで出場チームが紹介されており岩手県勢は



男子チームの「北上」と女子チームの「いしどりや」2チームだった。チーム「いしどりや」は今年で19回目の連続出場で、来年出場すれば20回出場記念の表彰を受けることになること、凄い事である。私には聞いていたが、実際に綱引き大会を観戦するのは初めてであった。全国各地からの参加であり、それぞれのチームカラー、特色のある応援などさすがに全国大会である。

チーム「いしどりや」は女子①ブロックで8チームのリーグ戦で決勝進出を目指す。ブロック内には昨年度優勝チームの福井県の「ファンキーガール」がおり初戦から厳しい戦いが強いられる。綱引きの勝負は

試合開始から決着までが3分以内で4m引けば良いらしいがそんなに簡単に勝負がつくものではなく、観戦している方も3分間が長く感じられ、自然に手を握りしめる力が入る。完全に競技者モードとなっている。試合内容は悪くなかったが善戦もむなしく1勝6敗で決勝リーグ進出はかなわなかった。最後の試合を見終わると少し力が抜けた、もう少し見たかったな、残念・・・。

チームの皆さんが意気消沈しているのかなとちょっと心配していたが応援席にあいさつに来られた時の、明るい表情には充実感が感じられひと安心。是非、来年も出場し一つでも多くの勝利を得てほしいと願う会場を後にした・・・。

在京花巻ふるさと会
「大横川さくらクルーズ」
に参加して

荒金 良子
(八重畑出身)

3月31日、在京石鳥谷町人会企画の「大横川さくらクルーズ」に参加させていただきました。

午前11時にお江戸日本橋の船着き場から船に乗り、日本橋川から隅田川に出て大横川へと・・・。大横川は、門前仲町と越中島の間を流れる川で、隅田川から平久川へ繋がる



約1kmの間が、桜並木となっており、水上と桜の木が近く、更に川幅が狭いため、船から見るお花見には最高

の場所と聞いていましたが、実際に来てみて、両岸からいただける染井吉野の桜は絶景で、花見を十分に堪能

できました。

今年の東京の桜の満開は3月27日でしたが、それを過ぎて4日目でしたので、桜吹雪と水面に浮かぶ花筏を期待しましたが、低温の日が続いたせいから少し時期がはいりようでした。周辺地域はこの時期に合わせ「お江戸深川さくらまつり」が開催されており、和船による体験乗船の風流な風景も見学できました。

昨年のクルーズでは残念ながら桜はほとんど散ってしまい、葉桜ばかりだったのでそれを思えばラッキーでした。岸辺から見る川と船から見る川とは、流域の広さが違って見え、最高の景色でした。

行き交う船の多さにも驚きました。隅田川から見上げるスカイツリーも格別なものでした。また、ガイドさんのコース流域の歴史を加味した流暢なお話し等は、このクルーズの別の楽しみを加えてくれた気がします。

下船の後、日本橋の船着き場近くに咲いていた染井吉野桜の下で参



右端が荒金さん

加者全員の記念写真を写していただき、その後「レストラン紅花別館」に移動してサントモニカコースの食事をいただきました。ここの名物である「ココットカレー」もいただきとてもおいしかったです。楽しい一日ありがとうございました。

「雨ニモマケズ」

菊池 善男
(監事・好地出身)

(平成30年9月21日開催の「賢治祭」での菊池さんご本人による「雨ニモマケズ」の朗読前にお話ししたことを文章化したものです)

花巻市石鳥谷町在住の菊池善男と申します。どうぞよろしくお願ひします。本日の私のミッシヨンは「雨ニモマケズ」の朗読で、持ち時間の余裕は余りありませんが、「雨ニモマケズ」に少し振り返ってみます。

皆様ご承知のように「雨ニモマケズ」は他の賢治作品の詩などと違いまして他人によんでもらうとか、世に発表しようとは全く考えていなかったもので、賢治さん自身が自分かこうありたい、このように生きていきたいという、いわば「祈りの言葉」を綴ったものです。弟の清六さんは特にこの「雨ニモマケズ」中で4回使われている「イッテ」という、

即ち「実践する」ということがキーワードで大変重要なことだと話しておられたということです。この黒革の小さな手帳の1ページ目には「昭和6年9月20日 再び 東京ニテ 発熱」と書き込まれています。東北砕石工場の技師として販売拡張のため上京中、過労のため死ぬことを覚悟して花巻の両親宛てに9月21日付で遺書を書いた危篤状態の症状でした。直ぐに花巻に戻り療養、病状回復が窺えた亡くなる約2年前の11月3日までの時期に、116ページのうちの51ページから10ページに亘ってこの「雨ニモマケズ」は書かれたものです。「雨ニモマケズ手帳」と「遺書」は、亡くなった翌年の2月16日新宿「モナミ」が会場の第1回宮澤賢治友の会の席上、愛用のトランクの中袋から偶然発見されたものでした。

このように賢治さんの人生の中で極めて辛く厳しい状況の中で書かれた「雨ニモマケズ」の朗読は、私には当時の賢治さんの心情を偲ぶとなかなか難しいことです。

地元の花巻では、妙円寺の林正文住職様が「雨ニモマケズ」の全国大会を毎年開催され大いに感動を呼んでおられます。

実は本日、これから朗読の素養を持っていない私が朗読させていたたくのは、今年6月23日のNHKの「ラジオ深夜便」での「仲代達也が語る宮澤賢治の童話「グスコップドリ」の伝記」という5日連続のラジオ

放送が終わった最終日の深夜1時過ぎに、同氏の「雨ニモマケズ」の朗読を聞き、ものすごい感動を受けたからです。本日はテープに録音した仲代達也の朗読の抑揚、リズム、速さなどに極力忠実にとの気持ちで朗読に挑むものです。

併せてこの時の放送で語られた印象に残ったことをご紹介いたしますと、「85才の私は今、『野菜』が好きで『納豆』それから『チョットした肉』があれば満足という、食事に關しては、理想的な事をしてるので、ということも一つは『複式呼吸』は絶対必要ですから夜寝る前に50回やっている」ということでした。

3年前の文化勲章受章に至る、演劇人俳優座養成所第四期卒・俳優としてのご自分を律する厳しさには、黒沢映画に登用されるにふさわしき、日々の精進の姿も察せられ、唯々庄倒されるばかりでした。

前置きが長くなりました。皆様におかれましては、どうか目を閉じて仲代達也を思い浮かべ、できれば一緒に口ずさみながら聞いていただければと願ひます。



同級生讃歌—新堀中学校同級
会に参加して思い出すことも

川村 政義
(副会長・新堀出身)

「メイセイオペラ」の調教師、

佐々木修一君のこと

昨年の11月24日、田舎の中学校の同級会に十数年ぶりに出席しました。席上、今回の幹事である山口修君との雑談のなかで、同級生である佐々木修一君のことが話題になりました。残念なことに、2015年6月10日に亡くなっていたことを知り、ショックをうけました。

彼は、石鳥谷町新堀出身で、私は保育園、小学校、中学校と同級生でありました。特に中学では、3年間野球部で一緒でしたし、三年の時は、石鳥谷町内四中学校舎野球大会では優勝するなど、共通の楽しい思い出があります。残念ながら、中学卒業以来一度も会っておらず、今

なつては、酒を飲みかわしながらの昔話をしたくてもできないことを心底残念に思っています。

皆さんは「佐々木修一」という名前は知らずとも「メイセイオペラ」という競走馬のことならご存じの方も多いのではないのでしょうか。競馬好きの方ならきっと記憶のなかにインプットされていることと思います。そうです、平成11年1月31日東京競馬場開催のJRA G1フエブラリーステークスで優勝した競走馬です。

何がすごいのかというと、地方競馬として唯一JRA G1で勝利し、現在でもその記録は破られていないということ。当時のマスコミ各社は、この快挙を大々的に報道しており、我がふるさと石鳥谷でも第一面に取り上げるほどの扱いでした。これは、かつての富士製鉄釜石のラグビー部の優勝や、昨年大活躍した大リーガー選手である大谷君の新人王獲得等の活躍に勝るとも劣らないといえます。当時のNHKの人気番組である『プロジェクト



写真右が佐々木修一(平成 11 年 2 月 1 日岩手日報)



「X」もこの快挙を取り上げています。放送されたのは、2004年7月13日でした。内容は、メイセイオペラがフエブラリーステークスで優勝するまでの物語ですが、調教師である佐々木修一も菅原勲騎手、柴田洋行厩務員とともに登場し、当時の思い出を語っており、番組全体の流れとしてみたとき、チームとしての勝利とはいえ、映像的には彼が主役級の扱いであったと思っています。この放送内容は、後日、単行本としてNHK出版から『プロジェクトX 25 勝利への疾走』として発行されています。関心のある方は、最寄りの図書館に所蔵されていると思いますのでぜひ読んでみてください(二段目の写真が本の表紙です)。

フエがデビュー、同馬は1995年にかけてデビュー12連勝を記録するなど通算18戦16勝、2着1回、3着1回という成績を残した。そして1996年、メイセイオペラがデビュー。途中、不振や大怪我などあったが活躍。その後モンスターに重賞勝ち馬を輩出し、若手競馬厩舎リーディングでも上位の常連となっている。

上京した後、彼がどんな生き方をしてきたのか、当時まったく知りませんでした。私自身、競馬はやりませんが、彼が成し遂げた快挙についても、知らなかったのです。ある時、田舎の友人から「修一がテレビに出てくるよ」という話を聞き、何のことがかわからず調べてみて初めて知ったわけです。

日本競馬史上大変なことを成し遂げた人物が、我がふるさと石鳥谷出身であったことを記憶にとどめていただきたいという思いで紹介させていただきました。

「わが同級生讃歌」
同級生というものは不思議なもので、50年以上の音信不通(ブランク)があっても、会って少し話をするだけで、瞬時に過去にタイムスリップし、うわべを飾る「取り繕った」会話などではなく、お互いに子供のころのような率直な会話になります。お互いに育った環境等も周知のことですので、どんなに上品に振舞い、恰好をつけて話しをしても同級会という場では通用しません。私にとっては、色々数ある会合のなかで

も最も安らぐ貴重な空間であることとを改めて認識させられます。

今回の同級会の出席者は男性 16 名、女性 5 名、計 21 名でした。すでに鬼籍に入っている者も男子 6 名、女子 5 名と、10 名を超えました。修一君同様、元気で生きている間に話しをしておきたかったなと無念の気持ちになります。

私たちは、昭和 25 年 4 月から同 26 年 3 月生まれで、俗に 31 年に一度といわれる「五黄の寅」と言われる年に生まれています。いまや、年齢 69 歳を過ぎた、よき「じい」「ばあ」どもです。昨年、主人公が盛岡出身ということもあり、同地でのロケが行われ話題になった映画のタイトル同様「終わった人」がほとんどです。お世辞にも外見上「変わらないね」とはいえない状況にきていることとお互い否定できません。

私たち 60 数名が受けた、新堀小・中学校通算 9 年間は、結果的に組織的連携がなかったにせよ、小・中一貫教育であったと思っています。特に校地が共通でしたので、その感が強く感じるのかもしれない。同級生は全員で 60 数名でした。多分、4 つの校舎のなかでは一番少なかったのではないのでしょうか。

常に 2 クラスで、数年間おきにクラス替えがあったにせよ、お互いの性格等よくわかっていました。たまには、けんかやいじめみたいなものがあったかもしれませんが、一方でみんな、良きにつけ悪しきにつけ、

学校行事を含め、何かをやるについてクラス一丸となって何事もやりぬくというチームワークは天下一品であったと自負しています。

ここで、同級生の自慢話をさせていただきます。「五黄の寅」の女性は強いといわれますが、この日出席の女性の中には新堀中学校始まって以来の快拳である「女子ソフトボール種目」で岩手県中体連三連覇を成し遂げたチームの一員である、大原陽子さん、鈴木作子さん、藤原裕子さんのお三方。そして、高校時代花農で、ボクシング東北大会でフェザー級チャンピオンとなった沢藤清悦君種森神楽の伝承者でもあります等の面々にも久々に会うことが出来ました。

来年再び東京オリンピックが開催されます。それで思いだしましたが、今から 55 年前前に開催された第 18 回東京オリンピックの時、私たちは中学 2 年でした、公式行事である聖火リレーの伴走者として参加できたギリギリ年少の学年で。その時選ばれたのは、佐藤邦昭君、佐藤定男君故人、鈴木むつ子さん、高橋恵美子さんの 4 人でした。五輪マークの入った公式ユニフォームで颯爽と石鳥谷の国道 4 号線を伴走する姿をみてうらやましく思ったものです。その時の思い出話を聞こうと楽しみにしていましたが、残念ながらこの日彼らは欠席のため聞けませんでした。

「わたしにとっての」新堀

私たちが中学に入学した時の学校名は、新堀中学校(昭和 38 年 4 月)で、卒業時は石鳥谷中学校(同 41 年 3 月第 2 回卒でした。一般的に契約的考え方からいえば、入学後に学校名が変わったとしても卒業は入学時の学校名というのが通常だと思えますが、現実はそのとおりではありません。このことについてとやかく言いませんが、現在でも新堀中学校最後の入学生であったことやそこで受けた教育に関し、「感謝と誇り」をもっています。

この地域の小、中学校での教育は、私の人格が形成されていく過程で最も重要な場であったと思っています。郷土の自然環境や、家庭、学校を包含する地域社会の育成機能を有する社会環境は私にとっては何にも代え難い価値を持っていたといまでも思っています。社会人として生きていくうえで人間としての「基本的生活習慣」というものを教えていただいたと思っています。このことは、人間が生きていく上で、勉強することを否定するものではないが、それよりもっと大事なことがあることを「子」や「孫」を見て、今更ながらあらためて痛感している次第です。



飯塚悦子副会長
手作りの一品
(ペンシル・ケース)

2019 主な行事予定

- ◆08 月 13 日 (火) **石鳥谷夢まつり(花火大会)協賛** 大正橋河川敷でお待ちしています
- ◆09 月 14 日 (土) **ふるさと応援ツアー** 今年は花巻まつりを楽しむ計画です
~15 日 (日)
- ◆11 月 04 日 (月) **2019 年度在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会**

会場 上野精養軒

時間 11:30~(受付 10:30 より)

郷土芸能は八日市地区の皆さんにお願いしております。今年は改元になって初めての開催となります。新たなる気持ちで、できるだけ多くの方々のご出席をお願いいたします。

「在京石鳥谷町人会」会員募集

当会は、石鳥谷町出身者およびご縁のある方々を会員としてお互いの親睦と融和を図り、ふるさと石鳥谷（花巻）との交流を深め、お互いの発展向上を図ることを目的とし活動しています。

毎年 1 回(11 月初旬)「上野精養軒」にて親睦交流会を開催しており、「ふるさと交流」の一環として石鳥谷の各地域の郷土芸能を披露して頂くなどとても楽しい会です。知人、同級生、町人会に関心のある方等に是非お声かけいただきお誘いくださるようお願いいたします。

なお、本会ではホームページを開設しております。関心のある方は「在京石鳥谷町人会」で検索してください。

ご意見や掲載したい情報等ありましたら、表紙掲載の事務局までお寄せくださるようお願いいたします。

原稿募集

会報「在京石鳥谷町人会だより」に掲載する原稿を募集しています。

テーマは

「ふるさとへの思い」

「最近思うこと」

「町人会へのご意見」

「エッセイ」

等々自由です。

会員皆様の会報誌です。どんなことでも結構です。どんどんメッセージをお寄せください。

マッテマース。

《連絡先》

広報部担当 飯塚悦子

(Tel 04-7188-0377)

〒270-1123 千葉県我孫子市日秀 83-2

編集後記

「平成時代」は、平成 31 年 4 月 30 日をもって終わりを告げます。

エピソードを画するこの記念すべき日付の入った「在京石鳥谷町人会だより」第 24 号をお届けすることができたことに誠に感慨深いものがあります。

この時代は、過去の歴史において唯一戦争のない平和な時代でありました。しかし一方、自然災害の多い時代でもありました。私どもにとっても忘れてはならないのは東日本大震災のことであり、死者・行方不明者及び関連死を含めると 2 万 2 千人を超えます。この未曾有の被害は平成時代史に深く刻まれました。犠牲になった方々のご冥福を改めてお祈り申し上げます。本誌でも紹介しましたが、大震災の発生から丸 8 年経過しましたが、復興は全体の 7、8 割のことです。まだまだふるさと支援をしていかなければならないと痛感いたします。

震災後、天皇皇后両陛下は、岩手県の被災地を二度訪れています。多くの被災者に励ましの声をかけられました。それによりどれだけ生きる勇気を与えてくださったことでしょうか。本当にありがとうございました。宮城県のある体育館を訪れた時、スリッパが用意できたのは両陛下に履いていただく 2 足分だけでした。それに気がつかれた陛下はいったん履かれたスリッパを脱がれたのです。被災者の方々が誰も履いていないのに、自分たちだけが履くわけにはいかないという思いだったのでしょうか。陛下のお人柄を知ることができるエピソードとして記憶に残っています。



武蔵学園本部棟（現「学園記念室」）に向かう当時の皇太子殿下（『武蔵七十年史』から引用）

左の写真は、昭和 27 年 5 月、私が勤務していた学校が「四大学学習院・成城・成蹊・武蔵運動競技大会」の当番校であったおり、当時皇太子であった現天皇が学習院大学の馬術部の主将として本学を訪問された時のスナップです。この時、本学では特別なことはせず、学習院の一学生として扱い、近所から取り寄せた普通の饅頭と緑茶を、普通の湯飲み茶わんで接待したそうです。それに対し、陛下は屈託なくそれを召し上がりになったと聞いています。

陛下は、皇太子時代から象徴天皇として「国民とともにある」とはどついうことか」を常に意識されていたのでしょつ。ひざまずいて被災者に寄り添い続けようとする避難所での姿を映像等で何度も目にするたびに本学を訪問された時のエピソードが思い出されました。

両陛下のご健勝をあらためてお祈り申し上げます。
(川村政義)